

2023年デフスポーツ・サポーター会員状況

	ブロック名	全体目標	2023年達成数	達成数	年内目標数	年内達成状況	年内達成%
内部関係目標数	大阪市	1000	172	158	75	48	64.0%
	北摂				33	27	81.8%
	京阪				42	32	76.2%
	河内				42	32	76.2%
	泉州				32	17	53.1%
	他府県				2		
連盟直接申込			14		14		
団体会員目標数				1			

2024年会員拡大始動!

東京2025デフリンピックを1年後に控えた要の年が始まりました。全国的にデフリンピックに向けて準備が始まっています。大阪でも、昨年の活動実績をさらに展開していくため第11回大阪デフスポーツ・サポーター委員会が1月24日に開かれ、新年早々の取り組みを話し合いました。

1. 2023年会員状況

2023年のデフスポーツ・サポーター会員数は172名でした。内部関係目標1,000人と比べまだまだ少ない数で、2024年はこの数も年明け早々にリセットされま。2024年の各ブロック目標数はまだ決まっていますが、早急に決めて取り組みを進めたいと考えています。

新しい入会申し込み書が届いていきますので、2023年会員には早急に継続のお願いを、まだ会員でない人には2024年から会員になっていただく運動を大規模に展開しなければなりません。

皆さまの「応援したい!」が共生社会を実現する!

募集! デフスポーツ・サポーター

- 3 デフスポーツの啓発、普及
- 3 スポーツ手話通訳等の育成
- 3 全国ろうあ者体育大会(夏季・冬季)開催
- 3 デフリンピックやアジア大会等、国際大会に選手派遣
- 3 デフリンピック等国際大会の支援基盤の整備

お問い合わせ先
一般財団法人日本ろうあ連盟 スポーツ委員会

2. 報告と討議のなかから

(1)「東京2025デフリンピック大会規模(計画額)について」が発表された

これは、「シンプルで心に残る大会」とするとともに、「共生社会の実現につなげていくような必要な経費を精査の上、算定」されたものです。デフリンピックの全体イメージが決まります。

① 仮設等(5億円)

※競技会場内更衣室、ドーピング検査に必要な場所の仮設整備

② 輸送等(15億円)

※バス輸送、警備費など

③ オペレーション(70億円)

※運営、選手・関係者宿泊、ボランティア、救護、式典

④ 管理・広報(30億円)

※事務局運営費、広報費

⑤ 予備費(10億円)

合計130億円

(2) 近畿ろうあ連盟幹部研修会での全日本ろうあ連盟スポーツ委員会委員吉田航氏の講演について

吉田氏はかつてバスケットボールの選手をしていた。その経験でデフスポーツ・サポーターに熱心な方。

「大阪は役員中、心でデフスポーツ・サポーターの運動が進んでいるが、他の県は体育部関係が中心で運動が進んでいる。京都、大阪は2023

年3月から運動がスタート。しかしその他の県は12月からスタートしたところもある。だから会員数の表に表れた数字で判断してはいけない。」とのこと。

吉田氏の講演資料はわかりやすくてよい。みんなで読んで参考にしていきたいと思います。

(3) 河内ブロック新年会報告

1月14日(日)に開かれた河内ブロック新年会で、デフバレーボール選手の信田光宣選手(兵庫県在住)をお招きして講演していただきました。デフバレーボールの歴史などよくわかりとてもいい講演でした。他のブロックでもお願いしたらどうでしょうか。

(4) 大サ連から寄せられた声

「デフリンピックの色々な情報を、登録したメールアドレスへ流してももらえないだろうか。現在は3,000円の会費を払ってもこれといった見返りが無い。情報も分からない。」

この件については「会員への情報提供」として、良い方法を検討する。今でも情報提供はあるが、みんなが知っているわけでない。どんなものがあるか知らせる事が大事。

デフスポーツ関係者の練習風景やインタビュー動画を発信する意

主催：近畿ろうあ連盟 主管：公益社団法人大阪聴力障害者協会

北澤豪氏、デフアスリートがやってくる！

デフリンピック フェスティバル in おおさか

2024年 **3月20日** (水・祝)

13時30分～16時30分

(受付 12時45分～)

大阪市立

会場：鶴見区民センター 大ホール

《参加協力券》

高校生以上

2,000円

中学生以下

無料

福引あります！

《第1部》

- ・デフアスリートの紹介
- ・デフリンピッククイズ(賞品あり)など

《第2部》

記念講演

『障がい者スポーツの魅力』

一般社団法人日本障がい者サッカー連盟 会長

北澤 豪氏



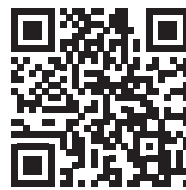
見が前からあるが、なかなか進んでいない。SNS担当の方でいろいろ考えているので、早急に発信できる方向で頑張りたい。

(5) 3月20日「デフリンピック・フェスティバル」完成

定員は700人、400人以上の参加を促進する。PRのため「デフリンピックうちわ」を作成する。

産経新聞関連の会社から、大阪市内全域にフェスティバルを掲載してはとの提案があった。以前利用した会社からのプレゼン。今回は利用しないことに。

フェスティバル当日、記念講演の講師北澤豪氏が大阪到着から、会場までの足や、分単位の細かいスケジュール管理必要。開始時間に間に合うよう十分対応策を。全体的な細かい責任体制をきっちりとさせておく。



【大聴協ホームページ】
3/20デフリンピックフェスティバル
のお知らせ

3. デフリンピック運営委員会

委員長 久松三三氏、デフリンピック運営委員会事務局

長倉野直紀氏が来阪

1月19日(金)、東京2025デフリンピック運営委員会委員長 久松三三氏、運営委員会事務局局長 倉野直紀氏のお二人が急遽来阪され、府立福祉情報コミュニケーションセンターにおいて、デフリンピック準備の現状について大阪の委員のみなさんと意見交換・懇談をされました。

デフスポーツ・サポーター制度会員状況、企業会員等の達成状況について数字と同時に、「デフスポーツ振興」「デフスポーツ・サポーター制度の充実」等についても、各県でのいくつかの具体的な取り組みの状況をあげながら、「こうすれば成功できる」「こうすれば広がっていく」等経験に沿った勉強になる内容を話していただきました。

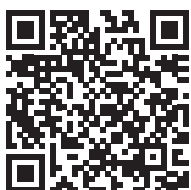
企業、団体向けに会員加入、協力をお願いする時、「名簿などを片っ端からお願いに回る」式の発想では労多く成果は少ない。その企業のコンセプト、今取り組んでいる事業内容などについて勉強して、どういう持ちかけ方をすれば、話を聞いていただけるか考えアプローチする必要がある。その際、突如のアプローチではなく、「伝手をたどった接触」の方が「話を聞いてみましようか」となりやすい。そういう意

味で、「今までのろうあ運動の中で繋がりでの出来ている団体、会社等をも一度見直す」ことが大切。お願いが出来た企業関係者、学校(特に大学など)団体のトップの方達に、協力していただける関係をつくる中でその方がもっておられる人脈、影響力、情報網等を使って、デフスポーツ・サポーター制度の目的、意図を普及する事を助けていただく。

要は、ろうあ運動関係者だけの狭い意味の運動に終わらせない、力のある人、団体を幅広くお願いして、一緒に運動を広げていただけるような働きかけが大切とお話でした。

終了後は場所を移し、交流会が行われました。

(文責 磯野)



【大聴協ホームページ】
「みんなのデフリンピック」
大阪上映会のご案内



【大聴協ホームページ】
大阪デフスポーツ・サポーター委員会の
取り組み